令和６年度　第３回住吉区地域福祉専門会議

令和７年２月６日（木）

【南保健福祉課長代理】　　ただいまから令和６年度第３回地域福祉専門会議を開催いたします。

本日はお忙しい中、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます住吉区役所保健福祉課課長代理の南と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、橘住吉区長からご挨拶申しあげます。お願いします。

【橘区長】　　皆様、こんばんは。区長の橘でございます。

本日も、西田委員長をはじめ委員の皆様方並びにアドバイザーの小野先生には、ご多用のところ、また、遅い時間から当会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、平素は区政の推進に皆様方から温かいご理解、ご協力、ご支援を賜りまして、厚くお礼を申しあげます。

さて、10月開催の第２回専門会議では、住吉区地域福祉ビジョンVer.3.0におきまして、重点的に取り組むべき課題といたしまして、「担い手不足の解消」や「ゆるやかなつながりづくり」の効果的な取組みについて、皆様方から貴重なご意見を頂戴したところでございます。

本日はいただきましたご意見を踏まえまして、事務局で作成をいたしました取組みの計画素案に対しましてご意見を賜ればというふうに考えてございます。

皆様方からいただくご意見につきましては、今後、ビジョンの実現に向けました取組みを具体的に進める上で大変貴重となるものでございますので、本日も忌憚のないご意見を賜りますようお願い申しあげます。

本日も最後までどうぞよろしくお願いいたします。

【南保健福祉課長代理】　　本日ご出席の委員さんにつきましては、名簿をお配りさせていただいておりますのでご参照ください。

なお、尾畑委員におかれましては、本日、所用によりご欠席です。

また、八牟禮委員、濱本委員につきましては、少し遅れてのご出席となるようです。よろしくお願いいたします。

アドバイザーとして、桃山学院大学の小野教授にもご参加いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議を始めさせていただきますが、その前に皆様方にお願いがございます。

議事録を残すために、ご発言いただく際にお名前をおっしゃっていただきますようお願いいたします。また、録音をさせていただきますので、マイクのご使用もお願いいたします。

それでは、案件に入らせていただきます。西田委員長に進行をお願いいたします。

【西田委員長】　　西田でございます。本日もよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。

報告１の住吉区地域見守り支援システムの進捗状況について、２番の地域座談会の開催状況についての説明が終わった後に、皆様方からご意見をいただきたいと思います。３の「つながり・みまもり」については、１から３の質問の後、改めて時間をお取りしますので、よろしくお願いします。

それでは、事務局、ご説明のほうよろしくお願いします。

【増田地域福祉担当係長】　　保健福祉課、増田です。よろしくお願いいたします。

それでは､資料１､地域見守り支援システム進捗状況表をご覧いただきたいと思います。

10月に台帳の更新をさせていただきました。そのときの5,348件から140件、移動と死亡等ありまして削除させていただいて、現在、5,247件が地域にわたっておりまして、改めましてこの３月に追加台帳として台帳を交付させていただく形になっております。

それと、個別支援プランにつきましては、ここに書かせていただいておりますように、清水丘、遠里小野、東粉浜、南住吉、山之内、苅田、苅田南、苅田北というところで、全対象者の個別支援プラン作成に取り組まれているというところで、あと残り４地域につきましては、今後、引き続き作成に当たっていただく状況となっております。

また、12月の行政情報を抽出した名簿に基づきまして、２月発送予定ですけれども、ちょっと作業の都合で３月にずれ込むかもしれませんけれど、改めて新規の方に対して意向確認書を発送する予定をしております。その時期が来ましたら、介護保険事業所連絡会であったり、障がいの方の自立支援協議会にもご協力をいただきまして、できるだけ回答をしていただくように努めてまいりたい、また、未回答の方については、民生委員のご協力の下、進めていけたらというふうに思っております。

地域見守り支援システムの進捗ということで、以上とさせていただきます。

続きまして、資料２、地域座談会の開催状況についてということで、今年度山之内地域、清水丘地域、住吉地域、長居地域で開催していくということを挙げさせていただいて、取組みをしているところであります。

山之内地域におきましては、令和５年度等から引き続きの開催ということで、今年に入りまして、１月14日に第４回目の座談会を開催させていただいております。

中身的には資料に書かせていただいておりますように、３班に分かれてグループワークをさせていただいて、Ａ班では、防災について、子どもが参加する防災訓練、避難所でのプライバシーの確保ということ、Ｂ班では、世代を超えた交流の場、山之内福祉まつりの開催、Ｃ班では、世代間交流ということで、世代間交流にはボッチャが有効、子ども体験ミュージアムの充実というような、子ども体験ミュージアムというのは、この座談会の中で出た議論の中から、子どもが参加できる事業ということで、今年度山之内地域で初めて取組みをされた内容となっておりまして、それを充実していこうというような議論がされたところです。

清水丘地域につきましても、１月30日に地域高齢者支援ネットワークと併せてというか、これを地域座談会と位置づけながら、地域の皆さんと議論をいただきまして、様々な意見を出していただきました。そういった形で次回につなげていけるようにということで話を進めさせていただいております。

住吉地域につきましては、昨年10月にハロウィンスタンプラリーということで、子ども対象に事業行われておりまして、これをさらに充実させていく、議論を進めていく場を開催をしていくということで、それを多様な主体を巻き込んで座談会として発展していけたらということで、現在取組みを進めているところであります。

長居地域につきましては、12月17日にコアメンバー会議を開催しまして、今年度中、３月に一度、長居の地域座談会を開催していこうということで、テーマとしては、「子ども」「防災」「長居はひとつ」といったところをテーマにしながら議論ができたらというお話をいただいているところであります。

せっかくですので、本日、山之内地域から山下委員にご出席いただいておりますので、少し座談会の様子等、ご報告いただけたらと思っております。

【山下委員】　　すみません、山之内の山下でございます。

山之内地域、いつも積極的に何事も取り組んでおりますが、特に小野先生から増進型福祉のお話を聞いてから、より一層やる気が出まして、一生懸命皆さんやっています。

特に地域の年寄りとか障がい者の方に買物、それと、病院に通院とかって、いろいろな面で移動手段を確保したいということで、先般からご報告させていただいています「楽しみスマイル号」、期間を延長して実施いたしまして、なおかつ、今まで１事業所だけの運行だったのですが、２月からは月曜日と水曜日に、新たに２事業所の方が手を挙げていただきまして、一番最初やっていただいた業者さんの負担が２日間減りまして、なお一層、地域に貢献しているというところで頑張ってやらせていただいております。

それと、一応座談会が終わった後で、いろいろその後の経過の中で、やはり子どもの参加も促したいということで体験型ミュージアムをしましたが、これについては何種目かある中で、やはり子どもたちに手ほどきで物事を教えるという、高齢者の方がそういう役目をなさって、子どもとの交流がうまくスムーズにいったかなという感じがいたしております。

そして、また、今後の課題としましては、防災に関しての関心も、委員の皆様方というか住民の皆様方の積極的な意向がありまして、山之内の震災防災訓練にぜひとも中学生を巻き込みたいなという話になっておりまして、以前ありました土曜授業での大和川中学校の中学生の参加というのをどうしても再び実現できないかなということになっておりまして、この辺につきましては、またいろいろ行政の方々と相談させていただきたいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

以上です。

【西田委員長】　社協の松尾事務局長から補足がありましたら、よろしくお願いします。

【松尾社会福祉協議会事務局長】　社協の松尾です。

今日の資料の中に、山之内地域座談会の振り返りという、左肩留めの資料を入れていただいております。

山之内地域での座談会は、２年前に１回目を始めまして、そこから先日行いまして４回目ということで、12地域の中で定着しつつあるなというような座談会を山之内地域では行われておりまして、毎回初めて参加してくださる方にもこれまでのプロセスが分かるようにということで、過去４回のものを簡単にまとめさせていただいたものを毎回共有しているようなところです。

もう見ていただいたとおりで、１回目のところでは、小野先生から増進型地域福祉の考え方を分かりやすくお話いただいて、地域の方々から地域の現状や課題、それと、現状や課題だけじゃなくて、こんなに地域にはいいところがあるよといったところも出し合いな

がらワークショップを進めていったというようなところです。

その中から居場所のこととか防災とか、交流の取組みって大事だよねというようなお話もあって、会を重ねてまいりました。

めくっていただきまして、２回目、３回目進めまして、今、山下会長からもお話ありました実際に１回目の座談会で、なかなか南北の縦に長い地域特性というようなところもあって、住民の移動が難しいといったところへの課題への取組みということで、山下会長を中心にご尽力なされて、「スマイル号」の運行が始まったりとか、今お話もあった子どもたちの体験の機会、そこに地域の方たちが一緒に、地域の方たちが教える役というのか伝える側として、そんなしつらえで企画された子ども体験ミュージアムというもの。

また、地域の方々と福祉施設の、あるいは、介護の事業所の方々との交流をもっと深めたいといったこともありましたので、昨年の11月には、地域の中にある全ての福祉介護の法人の方々に呼びかけをして交流会をして、またそこからも「そんな機会があるなら、ぜひ座談会にも参加したい」というお声もあったので、４回目のときには新しいご参加の施設さんや介護事業者さんもご参加いただいたというようなところで、最後のページには、１月直近で行いました座談会の様子のことを簡単にまとめさせていただいています。

今日は、資料の中にはないのですけども、山之内地域の中では４回、座談会を重ねてきた中で、地域の方々が地域座談会をどんなふうに評価しておられるのかというアンケートでお取りしているのですけれども、その中では、やっぱり「いい話合いの場になっている」という方が34％、それから、ごめんなさい、「いい話合いの場になっている」のは26％ですね。ちょっと前後して申し訳ありません。「つながりが広がる機会になっている」というのが34％いらっしゃいまして、そのほかにも、「地域の課題を持ち寄る場になっている」、あるいは、「ふだんの取組みを振り返る場になっている」とか、「新しい試みを行える機会になっている」というようなことで、座談会の意義も地域の住民の方々に認識をしていただいていたり、深めていただいているようなところがアンケート結果からも見て取れるかなというふうに思います。

補足をさせていただきました。失礼します。

【増田地域福祉担当係長】　　山下委員、松尾事務局長、ありがとうございます。

先ほども報告させていただきましたように、清水丘地域におきましても開催をさせていただいております。今日、相良委員、稲田委員、ご出席いただいておりますけれども、代表して稲田委員のほうからご報告いただきたいと思います。

【稲田委員】　　住吉区地域包括支援センター連絡会、稲田でございます。

私が所属していますのは、住吉区西地域包括支援センターでございますので、清水丘地域、相良会長のほうともお話をさせていただいて、先ほど資料２ページ目のところで。令和７年１月30日の開催の報告もありました。

まず、包括支援センターのほうから、個別課題に対する課題解決を含むような地域づくりについてということで、総合相談もしくは地域会議から見えてきた課題の共有ということで報告をさせていただいたような次第でございます。

そこに合わせて、日頃から相良会長のほうからも、地域の役員さんの研修とか勉強会というのは非常に多いんだけども、実際に活動されているボランティアさんとか、そういった方々にも活動の共有を図っていくべきだということでお声かけいただいておりましたので、併せて、当日は生活支援体制整備事業の担当職員にも来ていただいて、地域における趣味活動や居場所づくりみたいなところの活動についても一緒に共有が図れる場として、座談会のスタートというところで位置づけをさせていただいたところでございます。

改めて皆さんと共有させていただいたところのスタートの位置づけになりますので、個別課題の課題解決をするための地域づくりの位置づけと、あとは、ふだんから皆さんが趣味活動であったりとか、興味を持たれているような活動を進めるための居場所であったりとか、そういったことの地域のつくり方というところのこの２つの事項、それぞれが話し合う場を持つのではなくて、新たなプラットフォームをつくって、一緒に協議できるような場を持つことが必要じゃないかという形でスタートしたような次第でございます。

まさしく、中には男性のいわゆる居場所であったりとか参加者を増やすというようなところは、地域の課題としても上がってきていましたし、当日、住吉区の老人福祉センターの館長も出席していましたので、老人センターのいわゆる福祉講座であったりとか、ボランティア講座についても、男性の参加者についてターゲットを絞るようなことも取組みがありましたので､そこを地域とコラボできたらいいよねというような話も出ていましたし、また、地域の課題から、買物支援という形で、移動販売、清水丘のほうでもルートを新たに設定されているようなところもあります。

実際その販売店、地域住民の方の希望のニーズですね、品ぞろえなんかも聞けるような機会ができればなあという形でお話もいただきましたし、常駐支援員さんにももちろん参加していただいていますので、先ほど報告ありました地域の見守り支援システムの日頃の活動の中で、どうしても孤立リスクの高い方に対しての見守りの仕方、いわゆる救急搬送

の仕方みたいなところで意見共有させていただくような場にもさせていただきましたので、非常に活発な意見交換をさせていただいたようなところかなというふうに思います。

いつもどうしても包括主導でいきますと、課題解決をめざすための地域づくりというところで焦点を置きがちなんですけども、やはりそこだけで終わるのではなくて、ふだんの活動の中での地域づくり、生活の中での地域づくりというところに福祉の活動を落とし込めたらなということで、今後も継続して、参加者の拡大をめざして、つなげていければなという形で会長のほうにもお声かけいただいたような次第でございます。

引き続きよろしくお願いいたします。

【松尾社会福祉協議会事務局長】　ありがとうございました。

以上で、座談会の開催状況についての報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【西田委員長】　ただいま事務局より説明がありました。

また、山下委員、それから、稲田委員からも、それぞれの地域での活動の報告をいただきましたので、この件につきまして、皆様からご意見、ご質問等はございますでしょうか。よろしいですか。

では、私から。非常に２つのすばらしい取組みを報告いただきましたので、恐らく地域特性みたいなものもあるんだろうとは思うんですけども、これをやっぱり地域座談会を中心に、今まで恐らく地域福祉の区政を今展開してきていると思うので、これを全区的に展開していくと思うと、それぞれの地域のうまくいっている要因というのがおありだと思いますし、やはりそれぞれの地域の中で行き詰まっている地域もあると思います。

それを戦略的にどう展開していくかということが恐らく必要だと思いますので、恐らく区役所の立場と社協の立場、それぞれの見方があるとは思うんですけども、今何かそういうところで、全区的に広げていくために必要なことというのがありましたら、区役所の立場と社協の立場で少し聞かせていただきたいなというふうに思います。

【増田地域福祉担当係長】　そうですね、座談会、これまでも６地域、７地域ですかね、開催してきていまして、４回目まで進めたのが山之内地域ということになっていまして、やっぱりコロナで、ほかの地域はもっと30人、40人規模で開催をしていたんですけれども、割とコンパクトに30人切るような人数で開催ができたことが、逆に密度の高い議論ができたのかなというところもありまして、そこから逆に山之内地域としては、参加メンバーを増やしていけたらというお話もいただいているので、そういう意味では、最初にぎゅっと

コアメンバーから少し広がったようなところから初めていって、徐々にメンバーを増やしていくというのも１つかなというふうに思ったところですし、山之内地域さんのことばかりを言うのもあれなんですけれども、誰が来てもいいんだよという雰囲気づくりというのも地域ではしていただいている部分があって、そういったところもやはり大きいのかなというふうに感じていますので、区役所としては、地域が自主的に誰もが年に何回か集まって地域づくりについて話し合える場が定着していけばいいなと思うんですけれども、そこに行くまでは、やはり区役所、区社協が事務局としてサポートをしていく、開催に当たって支援をしていくというのは必要だと思っていますので、引き続き重ねていけたらということと、コロナ前にやらせていただいた地域がそこで途切れてしまっているので、改めてそこをどうしていくのかというのも、今後考えていく必要があると思っております。

【松尾社会福祉協議会事務局長】　　社協の松尾です。

今、増田係長がおっしゃられたことと重なる部分もあるかも分かりませんけれども、私は、手応えとしましては、やっぱり初期のアプローチをさせていただいた地域、今どうしても行政や社協が、何というんでしょうか、準備をして会議を持つという硬いイメージの場の持ち方にどうしても雰囲気的になってしまいがちだったと思っています。

地域の方も構えて、「座談会って何？」って、「何話しするの？」という感じで来られるんですけども、でも、やってみるとすごくいろんなお話が出ますし、わいわい楽しい感じで、そんな雰囲気のお話になるので、アンケートを取ると「すごいいい機会やった」とか、「こういう話をみんなでする機会は本当によかった」とか、「もっといろんな人と知り合いになりたいな」とか、来ていただくと、座談会の意味とか、すごいいい場だなって分かっていただけたり、体感していただけるんですけども、そういうところで参加していただいた方に手応え感じていただくのに、我々のアプローチの仕方をもう少し考えないといけないかなと思いますが、地域座談会というのも、そのもの自体、ネーミングが固いというのもあるので、私は全然地域座談会という名前にこだわってないので、それこそ地域の方々が座談会の名前を考えていただいたり、愛称を考えていただいたり、そんな感じでもっともっと緩くできたらいいんだろうなとも思いますし、今年度とか昨年度とか、今、今年は複数地域で呼びかけもさせていただいていますけども、あくまで地域の方々がどんな話合いの場にしたいのかという、そこを大事にしながらやっていこうということで、社協の中では特に職員同士で話をしながらやらせていただいているので、本当に地域ごとの場の持ち方、これから長居と、また住吉と始まっていくんですけども、本当に地域の方々のつく

りたい集まりの場にしていきたいと思っていますので。

というのと、あと、本当に後から来られた方とか、途中から来られた方も出入りしやすい雰囲気だったりとか、初めての方もすっと入れるような、そういう場づくりとか雰囲気づくりってすごい大事なんだろうなと思うので、まず、地域の方や区役所の方とそういったところも共有しながら進めていけたらと思っております。

以上です。

【増田地域福祉担当係長】　　すみません、ちょっと大事なことを言い忘れていまして、今回この座談会をやるに当たって、小野先生に入っていただいてというところが、やはり１つ大きなポイントだとは思っておりまして、そこを言い忘れていました。やっぱりこれまでの福祉のイメージというのは、マイナスからゼロにしていくまちづくりをどうするというところを、やはり増進型ということで、ゼロからさらに地域のみんなが幸せになっていくにはどういうことをめざしていくんだということをめざして議論ができるというところで、かなりその議論の中身が明るく発展的な議論ができているのかなというふうには思っていますので、そういったところを、まだ開催できていない地域なんかにもしっかりと伝えて、今回やっているこの座談会、増進型福祉というところは、やっぱり地域全体がみんなで幸せになっていくための方策を議論できる場なんですよということをどう伝えていけるかで、盛り上がりがまた変わってくるのかなと思っていますので、そういった点はしっかりとまだ開催されてない地域にも伝えていけたらというふうに思っています。

【西田委員長】　　ありがとうございます。

小野先生何かありますか。

【小野教授】　　持ち上げられたので、気分よく話します。

今指名されなくてもちょっと発言しようと思っていたんですけど、非常に重要な、恐らくこの場にとって非常に重要なところに来ているんだろうなというのがあって、私もこれに関わり始めて、どう進めようかいろいろ考えたんですけど、一番最初の頃の構想は、恐らく最初二、三か所、私が関わりながらモデルをつくって、それを全区的に広げていくみたいな、そんなイメージで進められるのかなというふうに思っていたんですね。ただ、いろいろコロナとかそういうこともあったので、一筋縄ではいかないなというのも思いながらやってきました。

でも、今日の報告を聞くと、ある程度それぞれの地域の特性をいかに生かすかということが重要だなという、そういうノウハウも、逆に言うと、蓄積できそうな感じもしていて、

本当、山之内は私、４回のうちたしか３回行っているんですけど、行くたびにどんどんどんどん面白くなってきているんですよね。何でなんだろうというような感じがしていて、今松尾さんが最初言っていましたけど、最初の頃はやっぱり行政主導、社協がすごい全部やってみたいな形になっていて、今でもそういう形は残っているんですけど、実際には来た方がどんどんどんどんすごい発言をしていって、その場が盛り上がっていくという。この話合い自体は、やったらやっぱり盛り上がるというのは私も体感しているところです。

ですから、そこに来てもらうという状態をどうつくるかということが、１つポイントだなというのはすごく思いました。

稲田さんの話を聞いていて、最初は専門職の人たちは、やっぱりある程度やってくれるだろうという期待はもちろんあるんですけど、でも、その意識が、何回かこれ繰り返していったんですけど、包括主導とか、恐らく専門職主導になっちゃうと、どうしても問題解決型の考え方をすると。

それはそれで重要なんですけど、でも、やっぱり住民の人たちと関わるところで地域づくりをしようと思ったら、そこだけじゃなくて、これも先ほど稲田さんが言ってくれたんですけど、地域づくりの２つのアプローチを言ってくれて、１つは専門職のほうから課題解決をしながら地域づくりをしていくという、そういう方向が１つあります。

もう１つは、もうちょっと、例えば、好きなこととか趣味とか、みんなが興味を持っていそうなそういうものをつなげて地域づくりをしていくという、そういう方法があります。

この２つをどういうふうに組み合わせるかというふうな考え方があったんですけど、２つをばらばらにするんじゃなくて、両方それを混ぜながら何かつくっていくんだみたいな、新しいアプローチをちょっと考えていそうな感じがして、非常に面白いなと思いました。

地域福祉は、究極にはやっぱり住民の人たちが参加して、あるいは、住民の人たちが主体となって、そこに専門職とか、行政とか、社協が一緒になってつくっていく。

だから、イニシアチブはやっぱり地域とか住民の人たちが取れるようになっていくというのはすごく重要なポイントで、そのために、何で増進型を考えたかというと、やっぱりみんなが関われるという状態をどうつくるかということで、これまでの福祉、当然重要なんですけど、そこで終わると、やっぱり専門職がやっている福祉という感じがどうしてもしてしまうなというところがあって、それをさらに住民の人たちを巻き込むための方法として増進型があるぐらいに考えていただいて、別に増進型地域福祉を全部やろうという、そういう発想じゃないんですね。その方法の１つなんだと考えてもらうと、地域に合った

やり方をどういうふうにつなげていくかということで、まだ私が知らない地域、住吉にはいっぱいあると思いますけども、そこに合わせた形をどうつくっていくかは、その最初の発想するのは、恐らくこういう場で、先ほど西田委員長が問いかけてくれたんですけど、どうやったら全区に広がっていくんだみたいなところを、やっぱりこれは本当に、今のせっかくここまで来たものを展開していく、ちょうどそういう場に来たなというのは、今日、先ほどの発言で思わされましたので、本当みんなで、私も含めて、知恵を出し合いながら、ちょうど知恵を出すところに来たぞというのを改めて感じました。そういうところでございます。

【西田委員長】　　ありがとうございます。

「誰が来てもいいよ」というこの言葉って、結構難しいプラットフォームづくりだなと思うので、それがなぜできたのかであるとか、それのためのご苦労であるとかという部分は、恐らくそれぞれの地域に蓄積されている経験値が多分おありだと思いますので、何かそこら辺の苦労話みたいなのも聞かせてもらいながら、多分そこがあるから、専門職と地域がコーディネートできたというか、そこら辺はやっぱり専門職が意識的にやっぱりコーディネートしていくというのは大事なんだなというのを、今、お話を聞かせていただいて本当に思いました。ありがとうございます。

それでは、ほかございますでしょうか。大丈夫ですか。山下委員、お願いします。

【山下委員】　　係長じゃないですけど、私も肝腎なことを言うのを忘れていました。

実は、小野教授が我が山之内に来られた第一声で僕が感動したのは、「福祉って何」って言われて、「福祉は、要は幸せなんですよ」ということが、これが我が山之内の座談会で浸透していまして、特に何をやるにしても義務感でやっている人は誰もいてないんですよね。もうほとんどその義務感が幸せ感、幸福感に変わっているという、先生のマジックにかかったような、そういう状態で今活動している次第でございます。

以上です。

【西田委員長】　　ありがとうございます。

僕らもこれ常に事業とかでよく問われることなので、多分「福祉って何」というのは、恐らく捉え方が大分変わってきてはいているとは思うんですけど、原点に返ると、やっぱり幸せというところは、本当に実感をします。ありがとうございます。

それでは、よろしいですか。

それでは、続いて、報告３に移っていきます。「つながり・みまもり・支えあいシステム」

について、事務局より説明をお願いします。

【小西保健福祉課長】　　では、「つながり・みまもり・支えあいシステム」について、私のほうから説明させていただきます。

資料３－１と、それから、システム図のほうをご覧ください。

前回の専門会議で、区の実務者代表者会議という会議の説明をさせていただいたんですけども、その中で、「このシステム図が非常に分かりづらい」、「誰が見ても理解できるような説明がやっぱりほしいな」というようなこともご意見いただいたのと、それから、「色分けしてみたら、もっと分かりやすくなるんじゃないか」というご意見もいただきましたので、そういったことを踏まえて、少しつくってみたというところです。

色分けをしてみますと、確かに、これ、高齢の関係のものを黄色、障がいを青、子どもを赤というふうに、ちょっと便宜的に分けてみたんですけれども、確かにどういうものが地域に存在しているのかなというのが一目瞭然になったなというところがあります。

この「つながり・みまもり・支えあいシステム」の説明なんですけども、これも先ほど来から言われている、ぱっと見て分かるような説明というのが一番理想的なんですけど、なかなかそこまでたどり着けませんで、どうしても堅い内容になってしまっているところは、まず、おわびをせんとあかんところかなというふうに思っています。

最初に、社会的状況と国の動向というところで、もう皆さんもご存じのようなところ書かせてもらっていまして、国は地域共生社会をめざしていると。そこで重層的支援体制というものの整備が求められているということで、これは何かといいますと、包括的相談支援。地域も含めて、支援者がネットワークをつくって、切れ目ない支援を行うということだと思うんですけども、そういったことと、それから、参加支援。孤立している対象の方に対して、様々な地域の交流の場であるとか居場所につないでいくという支援。

それから、地域づくり支援。これはもう地域座談会のような、地域をいかによりよくしていくかというそういう支援というふうに理解しているんですけど、それを一体的に実施するということが求められていると。

これ、なかなか非常に難しいことでありまして、大阪市も来年度からこれを一体的にやっていくという方向性が出ているんですけど、それはあくまでも新たな機関をつくるのではなくて、これらを実施している様々な機関が現に存在しているので、その機関同士の連携を密にしていくことによって、一体的実施に近づけていくというような方向性ということで示されております。

そうしますと、この「つながり・みまもり・支えあいシステム」のめざすものというのは、まさに、それぞれのレベルでネットワークを重層的に構築することで、連携を密にして支援を有効に進めていくことによって、地域をベースにした取組みをサポートするという仕組みかなというふうに考えています。

言い換えれば、住吉区版の重層的支援体制をめざすものではないかなというふうにも考えているところです。そういうふうにちょっと記載をさせていただきました。

システムの機能と連携というところで、①から③④というところで、それぞれのレベルの、そこでどういった取組みが行われているのかというところを書かせていただいています。

例えば、右の地域のところでは、真ん中にある「話し合いの場」、まさに地域座談会であったりとか、見守り報告会というようなことになると思うんですけれども、そういったものによって、地域住民と、それから、専門職もそこに入ってネットワークが構築されていると。それが地域づくりにつながっているということを書かせてもらっています。

②のところでは、さらに専門職ですね、行政も含めた専門職がネットワークを構築して、より専門機関との連携が必要な課題について支援をするためのネットワークをつくっていると。

それは、地域と専門職と地域の間に双方向の矢印があるんですけれども、その話合いの場で行われている座談会であったり、見守り報告会に専門職も参加していますし、ＣＳＷさんは、特にもう日常的に地域の常駐支援事務所に巡回されているというようなところで、連携を密にされているというようなことを双方向のところで表現しているということを書かせていただいています。

②の地域と専門職と、それから、専門職と区との間の双方向の矢印というところは、③の、ちょっと裏側に行ってしまうんですけども、これ、さらに大きなネットワークというところになると思います。

それぞれの専門機関が協議体をつくっていますので、協議体のネットワークというところで、さらに広範なネットワークを区内でつくって、それが、包括的支援や地域づくり、参加支援などの取組みを地域で行うことを活性化させていくということで、双方向に矢印が向かっていくということで、どちらにしても、これは地域での様々な取組みを活性化させるためのネットワークが重層的に構成されているんですというようなことを、ちょっと表現をしてみたい、それが狙いなんですけれども、なかなかちょっとうまい具合には表現

できなかったんですが、これをたたき台としていただいて、また、皆さんのご意見をいただいて、また修正もしていきたいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

以上です。

【西田委員長】　ただいま事務局から説明がありました「つながり・みまもり・支えあいシステム」について、皆様方からご質問、ご意見いかがでしょうか。

山下委員、お願いします。

【山下委員】　もうごくごく簡単に、イメージ的なあれで結構なんですけど、この４番の「進捗管理を行う」という、この進捗管理の方法としては、どういうふうに行政のほうは考えておられるかなという、よろしくお願いいたします。

【小西保健福祉課長】　ありがとうございます。これについては、今後、議事のほうでまたご意見いただくんですけども、ビジョンの実現に向けて素案をつくりました。素案を今後どう実現していくかということを議論していただいて、実際、来年度に実現の取組みを進めていくんですけれども、それを来年度の専門会議の中でまた報告させていただきますので、それの内容でまたご意見いただくという形で、進捗管理を皆さんにお願いしたいなと思っています。

【山下委員】　実は、「具体的」とあえて申しあげたのは、せっかくですから、その12地域に足を運んで、そういう細かいことから吸い上げていただいて、一応進捗管理をしていただくという、そういうのを私は希望しているんですけど、よろしくお願いいたします。

【小西保健福祉課長】　ありがとうございます。12地域にもそれぞれ、地域座談会も含めて、いろんな機会に足を運ばせていただいて、状況をまた見させていただくということと、先ほどの今、地域座談会等で先行されている地域の好事例も皆さんに広げていきたいなというふうに思っております。

【西田委員長】　ほかございますでしょうか。よろしいですか。もうちょっと読み込まないと難しいですか。どうですか。

多分いろいろあるんだろうとは思うんですけど、ちょっと専門職と区のところの部分が余計ややこしくしているような気がするんです。多分法定で決められている会議をここに落とし込んでおられるんだろうなと思うんですけど、地域住民から地域と専門職が連携をし、それをまた細分化して議論しているように映ってしまうというか、ここの表現の仕方をもう少し、住民には非常に分かりにくい、地域福祉アクションプランに載る、地域住民が見る、せっかく子ども向けの表現にしたりとかいろいろしたじゃないですか。それが、

ここのシステム図だけ、やっぱり伝わりにくいというか。小西課長のご苦労はにじみ出ているんだろうなと思うんですけど、ここは本当にちょっと悩ましいところだなあというふうに思うので。

何かもっと分かりやすく、特に専門職と区のところなので、一番住民から程遠い部分にはなると思うので、ここをもう少し分かりやすく、図の中では。

多分専門職はそれぞれ分かっていると思うんですよね、これ。この黄色なんか全部そうですよね。地域包括で決められている法定の会議ばっかりで、これが１個課題にはなっているじゃないですか、会議ばっかりみたいな。ここに如実に出ていると思うので、そこはちょっと整理が必要かなというふうに思います。

という話をそれぞれから聞くと、多分大分時間がかかってしまうので、本題はこの後やと思うので、ここはちょっと別で時間を取って、もうほぼ専門職の恐らく解釈がほとんど入っていると思うので、ここは少し住民に分かりやすいようにどう表現するかは考えたほうがいいかなと思います。

【小西保健福祉課長】　　ありがとうございます。また、皆さんのお知恵をいただきながら、検討を進めてまいります。

【西田委員長】　　それでは、議事に移ってまいりたいと思います。

それでは、事務局からお願いいたします。

【中濱保健福祉課長代理】　　すみません、保健福祉課の中濱です。どうぞよろしくお願いいたします。

住吉区地域福祉ビジョンVer.3.0において重点的に取り組むべきことについて、第２回地域福祉専門会議でいただいたご意見に対する計画素案についてお示しをさせていただきまして、今後、具体的にどのように進めていくべきかについてご意見をいただきたいと思っております。

それでは、座って説明をさせていただきます。

それでは､資料の４－２､第２回地域福祉専門会議でいただいたご意見をご覧ください。

前回の専門会議では､「担い手不足の解消」と「ゆるやかなつながりづくり」の効果的な取組みについて、ご意見をいただきました。いただきましたご意見17件をＡからＤの４つの項目で分類をいたしました。

まず、Ａは､「より多くの参加者を募る・担い手を増やす」の項目に８つのご意見、Ｂの「子どもたちへの活躍の場の提供」の項目に３つのご意見、Ｃの「居場所の活用」の項目

に３つのご意見、Ｄの「専門職との連携など」の項目に３つのご意見をいただきました。

これらのご意見に対しまして、これからどのように取り組んでいくのかということを事務局で何度も話合いを行いまして、「担い手不足の解消」と「ゆるやかなつながりづくり」の効果的な取組みに向けて取り組んでいくこと、または、一緒に取り組んでいきたいことの計画イメージをまとめましたのが資料の４－１になっております。

資料の４－１をご覧いただけますでしょうか。

資料４－１の第２回専門会議でいただいたご意見に対する計画素案です。６つの計画素案をお示しさせていただいております。

まずは、「１.各地域で実際に活動中の支援者にアンケートを実施」としております。

その横の関連する目標１の①としておりますのは、これらの計画素案が、昨年６月に改定しました地域福祉ビジョンVer.3.0に関連していることを表現するため記載しております。

前回の専門会議で、「何をしたら担い手が増えるのかは、最近始めた人に聞いてみるのが有効ではないか」などのご意見を受けて、具体的な取組案としまして、「各会議などでアンケート、インタビューなどの協力を依頼し、支援者の参加動機を確認し、区民に周知啓発する」としております。

次に、「２．地域福祉の取組内容の情報発信を強化」としております。

前回の会議で、「より多くの参画者に協力してもらうには、情報発信も重要である」とのご意見を受けまして、具体的な取組案としまして、「地域福祉の取組内容の具体が見づらいため、「広報すみよし」やＳＮＳを用いて、地域福祉ビジョンの内容・事業周知や報告をより積極的に発信し、地域福祉の認知度を高める」としております。

次に、「３．地域座談会への参加依頼や地域座談会内での交流の場の協議依頼」としております。

前回の会議で、「地域座談会に多様なメンバーに参加してほしい」、「世代間交流の場を提供してほしい」とのご意見を受けまして、具体的な取組案としまして、専門会議委員に地域福祉を推進しているという当事者意識をより高めてもらうため、座談会への参加を依頼する」、「地域住民が世代を超えて出会い、交流できる居場所の活用についても各地域座談会で積極的に議論してもらう」としております。

次に、「４．子ども中心のイベント開催の支援」としております。

前回の会議で、「地域を好きになってもらうには、子どもたちに地域でのイベントに参加

してもらうことが有効」とのご意見を受けまして、具体的な取組案としまして、「中学生に理想の避難所などについて話し合ってもらえるような防災イベントに参加してもらい、活躍の場を提供するとともに、地域との交流を深める」、「地域が行う子ども対象のイベントについては、企画段階から子どもが参加できるようにするなど、子どもの意見反映に努めるよう依頼する」としております。

次に、「５．区長と子どもたちとの対談」としております。

前回の専門会議では、特に意見はありませんでしたが、「地域福祉ビジョンの基本目標２の①における意見表明権や自己決定権をシンボリックにアピールする取組みとして、子どもたちが区政に意見表明する機会を設ける」としております。

最後に、「６．大学生などの社会課題を解決するための事業支援」としております。

前回の会議で、「学生で社会課題を解決する授業が増えている」とのご意見を受けて、具体的な取組案としまして、「様々なコミュニティーも巻き込み、コミュニティー同士の集まる場を創出する」、「大学生が企画した取組みを区民まつりなどの既存のイベントで報告、または、実践できる機会を新たに創る」としております。

これら計画素案１から６につきまして、どこが主体となって取り組むのか、また、事務局の限られたマンパワーでどこまでできるのか。

事務局としましては、専門会議の委員の皆様や地域専門機関と連携して取り組んでいきたいと考えてはおりますが、１から６を同時進行で取り組むのはちょっと難しいと考えておりますので、何から取り組むべきなのか、または、１から６ではなくて、もっと別の計画のほうが有効ではないかなどを委員の皆様からご意見をいただけたらと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

【小西保健福祉課長】　　すみません。ちょっと補足といいますか、第２回の会議でいただいたご意見の中で、「学生で社会課題を解決するための事業が増えている」というご意見であるとか、「ボランティアを増やすのには具体的にハードルを低くすることが大事である」とか、「小さい頃から地域で活躍する場を提供し、地域を好きになってもらうことが必要である」とか、子どもや若者に関係するご意見を多数いただきましたので、事務局として、昨日、大阪公立大学の３回生の皆さんとうちの区役所の職員が意見交換するという機会がございまして、その機会をちょっと活用させていただいて、大学生の皆さんに地域課題、ボランティア活動についてのご意見をいただきましたので、参考にちょっとご紹介させていただきたいと思います。ちょっと口頭ですみません。

大学生の皆さんに、「地域のボランティア活動に参加するにはどんなアイデアがありますか」という質問させていただいたのですけども、例えば、「地域でのボランティア活動の情報が入ってこないので、広報・周知の工夫が必要ではないか」というご意見であるとか、あと、「ボランティア活動に参加することのメリットがはっきり分かれば参加しやすい」。例えば、ボランティア活動で大学の単位が取れるとか、就職活動に有利になるとか、あるいは、精神的なメリットとして、やりがいや達成感が味わえるとか、そういったこと。

そして、次に、例えば、「ボランティア活動に参加しやすい工夫があれば」ということで、例えば、「隙間時間で参加できる」というようなこととか、あるいは、「ボランティア活動の参加のきっかけとしては、身近な人からの声かけが一番効果的だ」と。例えば、「自分自身は友だちの紹介で参加したら楽しかったので、別の友だちにも紹介したら、その友だちも参加して楽しかったと言っていた」というようなご意見をいただいておりますので、参考に報告をさせていただきました。

また、ちょっと「とびだせ！ひみつきち」というチラシをお配りさせていただいているんですけども、これも学生の自主的な取組みということで、会場が四恩学園ということですので、委員長からちょっと補足いただければと思います。よろしくお願いします。

【西田委員長】　突然ご依頼がありましたので、開催して１回目なので、まだ全然成果は何も上がっていませんが、大事なのは、集まった人数というよりも、恐らくここに至ったプロセスの説明をしたほうがいいと思いますので。

今、四恩学園では、３つの大学の学生がそれぞれの大学ごとで四恩学園というフィールドを使って、社会課題を解決するための取組みをいろいろ考えてもらっています。そのうちの１つがこの「とびきち」という、公立大学の学生が考えている企画です。

これはもう１年以上議論を毎月重ねてきた結果、やっと先月、１回目がスタートしたということで、先ほど課長のほうからも、ボランティア活動に対しての動機であるとか、メリットであるとか、いろいろ意見が上がりましたけども、本当にこういうことを１個１個しらみ潰しに学生と一緒に議論をしてきたみたいなところですね。

私、最近思いますけど、社会課題を解決したい学生がこんなにたくさんいているんだというのは、本当に実感として思っています。

冒頭でもありましたけども、情報が入ってこないということで、やはり学生がＳＮＳを使って社会課題が何だと言っても、情報量が多過ぎて何に絞っていいか分からないような状態がやっぱりありますので、やっぱり専門職、ソーシャルワークをしている専門機関と

して、そこは一定狙いとしては、学生が解決できる場をつくるというのが１つ狙いで始まっていますので。

彼女たちが考えたのは、18歳から20代、特に20代前半の方の対象の居場所づくりということで、ひきこもりであるとか、社会とうまいことつながっていない、特に若者、そして、やっぱりこの裏にはＣＳＷの役割があります。やはりＣＳＷが場づくりをしていくという部分がありますので、そういった意味で、かなり学生たちが主体的に動くという部分と、いわゆる社会課題、生きづらさを抱えている人たちとのマッチングというのがやっぱり大事なので、ここは一定ソーシャルワーカーの役割だろうなというふうに思いますが、そういう場づくりを学生がメリットを感じながらやれるというのは、もうここにあると思いますけど、単位もしかり、そうだと思いますし、金銭的なインセンティブも方法としてはあるだろうと思いますし、就職活動に生きる、もう就職活動は結構大きいかなと思います。

残念な話、こういう活動をしている学生の大半は社会福祉に進まないという非常に残念な結果にもなっておりますが、やっぱりそれだけ課題解決のために活動をして、民間企業に入っていっても、民間企業もやはり最近は社会貢献というのが１つキーワードになっていますので、そこは大きな就職活動のメリットになっているんじゃないかなと思います。

以上です。

そのまま進めていいですか。

【小西保健福祉課長】　　お願いします。

【西田委員長】　　それでは、この後の議論をスムーズに進めるために、小野先生からコメントをいただきたいと思います。

【小野教授】　　分かりました。

具体的な話が出てきていますので、この後、皆さんからいろいろご意見いただければいいと思いますけど、まず、ちょっとせっかくなので、最後、四恩学園の西田委員長からご紹介があったやつを聞きながら思ったんですけど、四恩学園って、やっぱりうまいですよね。何というか、出し方がうまいというか、学生がやりたいような雰囲気を恐らくつくっているんだと思いますよね。

確かに今の学生はいろんなことを思っているんですけど、やっぱりなかなか行動につながっていかない場合が多くて、大学なんかで見ている限りは、こんな感じかなと思うんですけど、こんなふうに実際活動が始まってみると、すごい生き生きしていくというのは感じているところなんですね。

でも、そういう場をどうつくれるかという話なので、これ、実はさっきの校区の座談会なんかにも生かせそうな雰囲気がしました。地域の人たちが、こういう辺りまでセッティングすれば、何か自分たちで動き出すぞみたいな、その辺りのノウハウもぜひ共有したいなというふうに思ったんですね。

大阪公立大学の場合は、今このチラシにはボランティア市民活動センターが窓口になっていて、実は私、ちょうど府大にいたときに、これをつくっていたんですけど、それがここまでこんなふうに広がっているのかというのは、改めてそうかなと。

恐らく桃山もちょっと関わっていると思いますけど、その場合には、ある先生なんかの活動なんかをやっていく。

だから、状況に応じていろいろ、そういう相手を見ながらやっていくというのは、さっきの地域の座談会の話にまさに同じような形だったので、その辺りのノウハウもぜひ共有していきたいなというのは思いました。

今の話に戻りますけれども、かなり事務局のほうが苦労されてまとめながら、ここでやった議論をちゃんと使いながら次につなげていくという段階になってきています。

先ほどのお話で、ここの専門会議で話し合った２つの課題ですよね、「担い手不足」の話と「ゆるやかにつながり」をどうつくろうみたいなことを、ここで、皆さん、いろいろ話を出してもらいながら、そのとき、わーっと出していくような感じだと思いますけど、それをある程度事務局のほうでまとめて、それを実際のプランにどんな形で推移させていくかというところで、今日の話になっているんですけど、皆さんは、むしろそれを見て、これでいいかどうかという話をこの後ワイワイやってもらえればいいと思うんですけど、現状では、今６点ぐらい出ているということになりますが、まずはこの６点の内容、どうなんだというのもありますし、先ほど中濱さんの方から、これ以外に出してもいいって話もあったんですね。だから、もっとこんなのもあるんじゃないというあたりで、「担い手不足」とか「ゆるやかなつながり」というあたりが出てきてもいいのかなと。

まず、絶対すぐできるのは、これ、どう見ても、５番の区長と子どもたちの対談だろうなと思っているんですけど、まず、どんどん区長が率先してやっていただくと、勢いがついて、ほかの案もどんどん展開していきそうな感じもしているんですけども、結構時間がかかりそうなのもあるし、すぐやれそうなのも。

１番なんかのも、やっぱりちょっと行政的なちょっと固い雰囲気になっているので、アンケート実施というのもそうなんですけど、要は実際やっている人の声を聞きたいという

ことですよね、だから、恐らく。そういうのを他のまだやってない人が聞くと、ああ、そんなもんかって。そこで共感とかやる気、動機づけが起きれば、雰囲気が出るので、だから、アンケートがいいのかどうなのかというのはいろいろあると思いますけど、そういうご意見を皆さんからいただければいいんだろうなというふうに思っています。

枠組み的に見ると、ここの内容で、先ほどの基本的な「担い手不足」と「ゆるやかなつながり」がある程度網羅できているのか、いやもうちょっとこんなアイデアあるぞというあたりがあれば、新しく加わっていくということになると思いますし、子どもたちを取り上げていくというのは結構出てきているんですが、今の区の状況を考えて、もうちょっとこういう課題もあるかなと。

先ほどの四恩学園の例で言ったら、ひきこもりの問題なんかに意識がいっているわけですから、皆さんご覧になって、もうちょっとこういう課題もあるんじゃないかというあたりの、そこでつながりをどうつくるかというところをご意見いただければ、かなり議論が豊富化していきそうな感じがあるので、恐らくそれぞれの立場からいろんなアイデアが出てきそうですので、そういう話合いができればいいなというふうに思っています。

委員長、よろしくお願いします。

【西田委員長】　ありがとうございます。

資料４－１を見ていきながら、それぞれもっと具体的にイメージできるものはご意見いただきながら、これを膨らませていけたらなというふうに思いますので、今の小野先生のお話の中で、やっぱり「担い手不足」、「ゆるやかなつながり」、このキーワードで進めてまいっておりますので、それを具体化していく上で、この計画素案がどうなのかというところのご意見をいただきたいなということと、具体的アイデアについてご意見をいただけたらというふうに思います。いかがでしょうか。

それでは、宮川先生から。すみません。

【宮川委員】　そうですね、担い手不足というところで、短期的に必要な部分と長期的に考えてという部分で、ここにある子どもたちにアプローチしていくというのは、結構長期的なビジョンかなという感じはしているんですけど、それも必要だと。

短期的にはどうなんやというところが、なかなか難しいなという感じはしているんですけど、そこを大学生で埋めるのか、もっともっと、今現在、地域で生活している生活者、子育てをされているご家族だとか、そういうところも含めて巻き込んでいくというような取組みも必要じゃないかなというふうに思っています。

そういうところは、もう山下会長のところでは、結構いろいろされているようなので、いろんなアイデアをお持ちかなあと思うんですけど。

短期的に関わっていく部分で、対策として何かないかというところがちょっと抜けているのかなという感じはしています。

【西田委員長】　　ありがとうございます。三橋先生、いかがですか。

【三橋委員】　　私自身は医師会代表として参加しているので、関連あるとすれば、３ぐらいですかね。専門会議委員にも地域福祉を推進しているという当事者意識を高めてもらうということでは、訪問診療とかやっている先生は、地域福祉を推進しているという当事者意識は、残念ながらあんまり高くはないと思うんです。

ただ、そういう座談会に参加することで、私も苅田南の座談会に参加させていただきましたけども、地域の方の顔を見るというか、地域の方はこんな人がこんな役割をしているんだという、顔を見る関係づくりというのはありだと思うので、参加の依頼というのはそういう先生方を中心にやってもらうのはいいかなと思います。

ちなみに、私自身は、専門職と区の会議の７個ぐらい参加しているんですけども、顔を見る、参加が関係づくりといえばそうなんですけど、この会議が８個目になるんですけども、同じメンバーばっかり呼び出されるよりは、いろんな先生に参加してもらうほうがいいのかなとも思いますので、こういう座談会というところを入り口に、いろんな先生方に参加してもらいたいなというのが正直な思いです。

以上です。

【西田委員長】　　ありがとうございます。

それでは、松岡さん。

【松岡委員】　　松岡です。

小野先生がおっしゃってくださったように、一番早くできてインパクトがあるのは５番だなというのは、個人的にも感じました。

先ほどの小西さんが作ってくださった図を見ていても、この青色の障がい福祉の部分が地域のところにメインでないというのは、自分が障がい福祉の自立支援協議会から来ている加減もありますので、ちょっと気になるところですし、どう考えていけるかなあというのも考えながら、この計画素案を聞かせていただいていました。

個人的にというか、当事者家族でもあるんですけれども、障がいを持った人たちが今どうしても分断された中で教育を受けていて、幼少期とか学校教育の中で分断されてきて、

大人になってから地域共生社会で一緒にというのはなかなか無理があるよなあというのは日頃から感じていまして、ただ、とはいえ、そこを国連からも統合教育の勧告が出ていても、なかなかすぐには変容というのは難しいとは思うんですが、じゃ、今何ができるかなと思ったときに、この３番の座談会とか交流の場とか、６番の社会課題を解決する事業支援のところで、コミュニティー同士の集まる場に、障がいのある人たちがどうやってアクセスしやすくて、お客さんとか支援を受ける側ではなく、一住民として参加できる形をどう考えるのだろうかというのをちょっと考えながら聞いていました。

すみませんが、何か答えを持っているわけではないんですけれども、１つ提案、提案というか考えられることとして、私、普段、精神障がいをお持ちの方の支援に入っているんですが、カムアウトすることに非常に勇気が要ると。世の中に差別、偏見がありますので、安心してカムアウトができないという状況の中で、私が今所属している部署で居場所を提供しているんですね、事業の中で。その居場所の利用者として地域の取組みに出ていくということはすごくやっているんです。それこそ、今、隣にいらっしゃる藤本さんと年に１回、地域のクリスマス会をやっていて、うちのメンバーさんもみんなで、子どもたちや住民さんと一緒にすごく楽しんでいて、少し匿名性があったり、おうちという拠点ではなく、自分が使っている場所を拠点にまたつながれるということも、１つつながり方かなと思うので、こういった座談会に、こういった私たちのような施設の利用者さんと一緒に行けるというのも１つかなということと、福祉教育のあり方もちょっと考えないといけないなというのは感じています。

ここにはないんですけど、全体的に考えることで、私たちもたくさんいろんなところから、車椅子体験、アイマスク体験というのをご依頼があったりするんですが、果たしてそれだけが正しい理解になるのかというのがあって、「見えてよかった」、「歩けてよかった」という感想だけにとどまってしまうと、本来、めざすべき教育、共生というものでは決してないのかなというふうに感じているので、もうちょっとうちの法人的にも、それだけで福祉教育の依頼があったら、「もうノーと言っていきませんか」というのはちょっと個人的にも法人に言っていて、見学・見物の場所でもないし、自分が健康でよかったということを確認する場所でも決してないということで、交流できて、もっと出会えて、障がい持っている誰々さんとか、どこどこの何々さんがこういう状況やから、今、手伝えることがあったらこれやりますみたいな、何て言うんですかね、支援が必要だから助けてあげてねというような出会い方じゃない仕方を、ちょっと考えられないのかなあというのは思ってい

ます。

ただ一法人にできることはちっちゃいので、こういった交流の場とかを通じて、出会えて一緒に何かするという機会をちょっとでも増やしたいなというのは、障がい福祉に携わっている者として感じたところです。

以上です。

【西田委員長】　　ありがとうございます。

それでは、藤本委員お願いします。

【藤本委員】　　ありがとうございます。藤本です。

皆さんのお話を聞いていてあれなんですけど、「担い手不足」みたいな単語、私すごく嫌で、もともとあるやつに、今、関わる人が少ないから、どうそこを埋めていくのかみたいなことを言われちゃうと、いや、私それじゃないねんけどなとか思っちゃったりとかするので、そもそもボランティアとか、こういう社会課題を解決する人たちというのは、結局は自分の自己実現だと思うんですよね。

自分がそこにどうコミットして、そこでどう自分としてやっていくかみたいなところが、私は大事なんじゃないかと思っていて、私、今、「すみよし隣保館 寿」の職員をしていますけれども、もう一方で、インドネシアの児童養護施設を支援する団体をつくっていまして、そこはもともと桃山学院大学の大学生のときにインドネシアのボランティアプロジェクトに参加して、今そこに関係している12人が大人になって、30代、40代でずっと団体を継続していますけれども、そういったところから入っても、そこに自分がどう自己実現できたかということを実感できたらずっと続けられる、もう17年ぐらい続けていますけれども、やっぱりそういう、「ここが足りないから、あなた来てよ」というのではなくて、「ここであなたはどう自分を表現するのか」、「自分の夢をどこで達成できるのか」ということを表現できたら、もうちょっと大学生とか、私、大学生とか若者というところも大事だと思うんですけど、20代、30代、40代の方々が、今住んでいる町がどう自分と関わっていくのかとか、どうここで自分を表現していくのかというも大事だと思っていて、もちろん小学生とか中学生とかに伝えていくのも大事なんですけれども、もうちょっとそれは先の話かなと思ったりしていましたけど、今直結してやっぱり住んでいて、ある程度その地域のことがわかりだしてきたりとか、「私、孤立しているかも」とか、「私、ここの地域でただ寝に帰ってくるだけやん」とかという人も絶対いっぱい居てるので、そこでやっぱり自分の地域を知ってもらう、横の人とつながる、しんどいときはしんどいって言えるようなつ

ながりづくりのほうが、つながりづくりというか、つながる場、つながれる何か機会というのが、私は、中心となって考えやすいなと思って、今ちょっとお話を聞いていました。

だから、今、子ども食堂もいろんな利用者の人の声を集めていたりするんですけれども、やっぱりここがあって、例えば、住吉区があってどれだけ自分がよかったかとか、ここに参加して、自分がどれだけ幸福感が得られたかみたいなところが、やっぱり次に次にってなっていくんだろうなって思っているので、表現だけだと思うんですけど、「担い手不足」とか、「担い手をどう増やしていくか」みたいなんじゃなくて「住民の人たちがどう自己実現を住吉区でできるのか」、それは専門職もそうだと思うし、住民もそうだと思うんですけど、そういうこととかをもうちょっと考えたら、それこそ小野先生の話じゃないですけど、ネガティブなところからじゃなくて、ポジティブに考えていけたらもうちょっといいのかなって、私は思っちゃいました。すみません。

【西田委員長】　　ありがとうございます。

それでは、藤居委員、お願いします。

【藤居委員】　　藤居です。

要援護者を対象とする高齢者を対象として事業をしている立場として、本当に山之内地区の地域座談会で、住民、そこに住んでいらっしゃる方を真ん中において、どう支援していったらいいのかという具体的に会議を持たれていることがすごく羨ましいというか、自分が関わっている地域ではなかなかそこまでのことができていない、地域の中に入っていっても何だかちょっとよそ者扱いになっているところが実感されているので、そこをどう改善して、もっとこちらから積極的に関わっていかないといけない立場にいているのかなというふうなことを感じながら話を聞いていました。

あと、やっぱり情報を受け取る方法として、「広報すみよし」とかＳＮＳとか、それは自分から見に行かないと見られないので、今日のこの四恩学園さんがやっているこういう取組みなんかも、これ、私、初めて知ったんですけど、こういういいことがたくさんあるにもかかわらず、それを受け止める方法って、もっともっとないのかなあというふうに、自分の中ではそこが一番課題だなというふうに思いました。

【西田委員長】　　ありがとうございます。

では、八牟禮委員、お願いします。

【八牟禮委員】　　八牟禮です。

遅くなって申し訳ありませんでした。ちょっと声が出にくいんですけど、すみません。

今、本当そのとおりだなと思いながら、障がいの方とかに支援しているんだと思いながら携わる、関わるっていうこと、何か義務のような、何かしなあかんのちゃうかというような気持ちって、私の中ではあまりないんですけど、やっぱりそういうふうに思ってされる方も多いし、子どもたちもそのような感じで、何て言うんですか、教育を受けている、「助けてあげなあかんやん」みたいな感じですね。ちょうど子どもと関わっているので、やっぱり支援する子はいます。でも、その子らに対して、本当に「何かしたいねん」という子もいます。「この子と一緒におりたいねん」という感じの子もいます。

でも、しない子に、したくない子に対して、「しなあかんやん」って言っている子も確かにいます。でも、それが普通のように、いつも思っているのは、普通に「しなあかん」とかそういうのではなく、生活の中に組み込まれたらいいなあっていつも思いながら、子どもたちとも関わっています。

私ちょうど主任児童委員なので、子どもを見る立場から、子育てしているお母さんの立場からお話しさせてもらいたいと思うんですけど、今日も子育てサロンをしていたんですけれど、そのように思いました。

今日、ちょっとばたばたしていたのが、子育てサロンに来られたお子さんが嘔吐されたんですね。今ちょうどノロとか、いろいろ感染症がはやっているから、みんなばーって引くかなと思っていたんですけど、ちゃんと、何というんですか、適度な範囲で、ちょうど今日は保健師さんも来られていたので、騒ぐことなく、ちょっと離れて、何メートルか離れてされていました。

そういうのを見ていると、何かワーって下がりそうな気もするんですけど、そうじゃない方が来てたことで、何かすごくうれしかった、うれしいというのは変ですけど、少し安心したというか。関わっていませんよね、嘔吐した子とかの。関われなかったですけど、ちゃんと、ワーって思わんと、見守ってあげていたのが、すごく感謝というか、よかったなと思っていました。

今日は子育てプラザの先生も来てくださったのですが、４月から高校生まで利用できるようになるというふうにお聞きしたので、よかったなあと思って、ちっちゃい子ばっかりのような感じだったので、小学生とか中学生とか行けたらいいなってずっと思っていたことが、ちゃんと伝わって。いつも「小学生はいつ、何時からですか」とか聞いていたりしたので、それが、うちの子はもう大きいからそういうことはないんですけど、お聞きして、それが、ああ、実現したなあって思って、ありがたいなと思っていました。

以上です。

【西田委員長】　　ありがとうございます。相良委員、お願いします。

【相良委員】　　すみません。清水丘の相良です。よろしくお願いします。

これは余談と思いますけど、８年ぐらい前ですかね、昔、ネットワーク委員会とかいうのが発足しまして、それで、そういうときからあらゆる勉強をさせてもらっているんですけども、それで、今はネットワーク委員会というのは、各連合でもまだ残っているところはあるんですかね。ネットワーク委員会とか、そういう文言をつけた分が。

もうないんですか。そういう時柄ですので、基本的には、今日、１、２、３、５、６つ議題がありますけれども、基本的には、僕はできることからやりたいなと。基本的に、できることから。

あまり難しいことを考えても、実行なかなかできない。今、清水丘のほうでは、子どもと年寄りの方を中心に、僕は動いているんですけども、子ども会としては、ボッチャとか遠足とか、いろいろそういう事業をたくさんやっております。

それはなぜかいうと、基本的には子どもさんから、「楽しかったよ」、「清水丘、楽しかったよ」という意見が出るように、今そういうことで頑張っております。

それで、後は、年配の行事ですね、グランドゴルフとか、カラオケとか、百歳体操とか、それから、ふれあい喫茶ですね。そのときには必ず僕は出席して、情報を聞く。

それで、僕は大体行動派ですので、机の上でああでもない、こうでもないというのがものすごく嫌いなもので、それで、もう実践を、物事聞いて、年寄りがどんなことを悩んでいるかということを聞いて回る。そしたら、それをいつか参考にして、西包括さんといろいろと勉強会するんですけども、基本的には、できることから実行するということで。

それで、今の大学生のボランティアとか話が出ていましたけれども、僕らも地区で、大学生といってもＡさん、Ｂさん、どこの大学の学生かということが全然分かりません、個人情報で。そういう集め方も僕らは知りませんしね。

だから、地域で皆さんがボランティアできるような形を取っていただいて行動するということで、今、頑張っていますけども。

今言ったように、難しいことを考えずに、できることから地道にやるということに。それで、行事があるときには、僕はみんな顔を出しています。その際に、できるだけ皆さんに意見を聞いて参考にして、またこれからのいろいろと福祉の事業のほうに参考にしたいと思いますので、こういう状態で頑張っております。

口下手で申し訳ございません。

【西田委員長】　　いや、大丈夫です。ありがとうございます。

それでは、稲田委員、お願いします。

【稲田委員】　　すみません、包括支援センター、稲田です。

そうですね、もう多分、活動の継続性からすると、そんなに、無理があるって言ったら語弊があるかも分からないですけども、できる範囲でという今、相良会長のお話もありましたけども、その辺で発信ができたらなというところで、１つ、ちょっと個人情報のこととかいろいろもちろんありますけど、情報の取扱い、これも発信するほうもそうですけども、集約するほうもそうですけども、情報の発信みたいなところをきっかけにして、地域づくりができるようなきっかけづくりができたらなあというふうに１つ思っているところで、ちょっとこれも、全部清水丘の話ししてあれですけども、お互いに、どこで誰がいてという情報が分からない。もちろん子どもから大人までというところでの知り合うきっかけづくりみたいなところで、何かアクションが起こせたらなということで、１つ言っていたのは、これからまた夏場、非常に暑い時期が続いて、外出したときに、ちょっと地域の中で立ち寄ってもええところみたいな、コロナ前って多分水分補給ができるような涼みどころみたいなところをそれぞれの拠点で持ちましょうみたいな時期があったと思うんですけども、そういうところの情報のマップ化みたいなことをして、地域の中で共有ができるような仕組みづくりみたいなのをすると、これって別に高齢者だけの話ではなくて、お子さんであったりとか、そこに施設とか。

あと、逆に言うと、企業さんなんかも含めてということを、そんなに何か協力感がないと言ったらおかしいですけども、そこに手間がないような形で参画ができるような仕組みづくりというのは、１つ必要なのかなと思いますので、そういう形で情報発信できるような１つの機会として地域版ができたら、ちょっとこの２番目の話じゃないですけども、情報発信を同時にできるような仕組みと、知り合えるようなきっかけづくりみたいなところができれば、また、そこから話していくと、座談会のところの協力も呼びやすくはなるんでしょうし、活動しても広がりが取れるのかなというふうに思いますので、何か地域版のそういうところで、活動の見える化ができればなあというふうには、会長ともお話をしているところです。

【西田委員長】　　ありがとうございます。それじゃ、山下委員、お願いいたします。

【山下委員】　　すみません、１分間だけ。

５番の区長と子ども云々のところですが、ぜひ区制100周年のイベントの中に取り入れてください。よろしくお願いいたします。

区長応接室でもどこでもいいですから、子どもさんを呼んで、言いたいこと、聞きたいこと全て出し切ってやっていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

【西田委員長】　今、皆さんからご発言いただきましたけども、この６つの項目の内容云々というよりも、それぞれの言葉の持つ意味というか、コミュニティーの持ち方であるとか、つながる場の持ち方という要素を、非常にたくさん個々の意見が出てきたんじゃないかなと思いますし、本当に、藤本委員がおっしゃられたように、「担い手不足」のこの６つの項目という解釈よりも、「自己実現」というキーワードでくくったときに、この６つの見え方は全然変わってくるなというふうに思います。

だから、区民に出していくときにそこら辺の、松岡委員からもありましたけども、やっぱり障がいをお持ちの方についての配慮であるとか要素というのが、やっぱり区政としてどうなのかということは、１つ問いかけとしてあるかなと思いますし、そういった意味で、１つ１つの項目を実現していくときに、どういう言葉の表現をするかというのは本当に大事だなというふうに思います。

やっぱりポジティブに表現をしたときに、それぞれのコミュニティーの持つものがすごく生き生きとしてくると思いますし、冒頭で話したように「誰もが集まれる場ってどう作るねん」ということに全部つながってくるような気がしますので、多分「誰もが集まれる場」というのは、それぞれの参加の仕方が多分許容されている場だろうと思いますので、そういった要素で、ここの座談会のありようとか、交流の場、ここ１個１個ありますよね、イベントの開催とか、社会解決するための事業支援みたいなところに、恐らくどう反映させていくかということじゃないかなというふうに私自身も思いましたし、三橋先生からも、訪問医がこの中に入ってくるというだけでもやっぱり色が変わってきます。多分ＡＣＰのこととか、多分いろいろ医師は国の施策の中で言われていることが、恐らく地域に入ってくるとＡＣＰという表現では伝わらないので、それをやっぱりどういうふうに表現していくかみたいなところに変化していくんだろうと思いますので、やっぱり地域コミュニティーの中に、専門職というか、専門職個人で入るわけではないと思うので、それぞれの事業所があります。

だから、ずっとこの長年の課題ですけど、やっぱり専門職が所属している事業所と地域の関係性みたいなところは、１個やっぱり乗り越えないといけない部分だろうと思います

し、地域づくりにおいては非常に大事なファクトになるかなというふうに思いました。

それから、やっぱり楽しい場がたくさんあるんだろうと思うんですよ、住吉区の中に。恐らくそれぞれやっているので、それぞれやっていることが、別に全部まとめる必要はないと思うんですけど、魅力として発信できるというのは、多分住吉区の力じゃないかなというふうに思いますので、情報発信のありようみたいなことも含めて、そんなことを学生が戦略を立てて区政で表現するというのは、僕は１個夢があるんじゃないかなというふうにちょっと思いました。

それでは、流れ的には、この後、事務局からご答弁いただくということになっていますので、一旦事務局のほうにマイクをお返ししたいと思います。

【小西保健福祉課長】　　ありがとうございました。

確かに今お話をお伺いしていて、ちょっと反省したのが、どうしても行政的な発想になってしまっているのか、増進型福祉と言いながら、やっぱりネガティブな方向に発想がいってしまっていて、そこからの素案というような、やっぱりそういうふうに映ってしまっているのかなというのが大きな反省かなと思っています。

あと、できることから取り組んでいくというのも非常に大事なことかなと。やっぱりもう考えすぎているのかなというのもちょっと反省かなというふうに思っています。

本当にあんまり考えすぎないと。やっぱりある程度考えないといけない部分はあるんですけども、ちょっともう少し地に足ついた取組みということをやっていかないといけないのかなという、そこもちょっと反省というか、思ったところです。

今日いただいたご意見を踏まえて、また、事務局のほうでも、議論させていただきたいと思いますし、また、個別にご意見も皆さんからいただければなというふうに思っておりますので、またどうぞよろしくお願いいたします。

【西田委員長】　　事務局から答弁いただきましたので、小野先生に総括的なコメントをお願いします。

【小野教授】　　ご苦労さまでした。

非常に濃かったと思いますよ、今の話合いって、本当に。本来専門会議というのはこんな感じなんだろうなというのを改めて確認させられました。一人一人に対してコメント言いたいぐらいなんですけど、それこそそれで時間がなくなっちゃうので、まず、ちょっと事務局のほうについては、行政っぽいのでいいんだと思います、まずはね。まずはそこからなので。それでこのたたき台を出してくれたから、皆さんがあれだけのいろんなご意見

もらえたということなので、そこもポジティブに捉えたほうがいいと思います。そうです、うちは行政ですというところからいけば、全然おかしくはない。

ただ、小西課長がおっしゃっていたように、やっぱり考え過ぎて何もしないということをやっぱり一歩越えられるきっかけかなと思っていて、私もここでは随分話してきたことがあって、随分話して、随分話して、随分話したんだけど、なかなか一歩がという感じもあったので、ぜひその一歩を軽やかに歩んでいければいいなというのはすごく思いました。

全体的にみんな話になるんですけど、キーワード的には「みんながいるのが当たり前」という、そういう地域を本当に住吉でつくっていきたいと思って、皆さんここにいると思いますし、ここにいるのは、それぞれの代表の方ですけど、ここにいない人たちも当然いますから、そういう人たちのことも「みんなでいるのが当たり前」というメッセージをぜひ出していけたらいいなということはすごく考えました。

もう１つは、これ結構あるあるですけど、学生等の話の中で、やっぱり学生なんかは、つい「ボランティアやって何かメリットあるんですか」とかって話が出ちゃう。これは地域活動でも同じですよね。「自治会やって何かいいことあるんですか、メリットなんですか」とかね。「民生委員なんかメリットあるんですか」ってもうね、露骨にみんな言うんですけど、そんなもんじゃないんだって話ですよね、要はね。

だから、確かに大きい意味でのメリットはいっぱいいろいろあって、でも、そこで求めている答えは、むしろこういうことに関わることで自己実現ができるという話だと思いますし、それは単に、恐らく個人的な、個人の自己実現ではなくて、お互いに自己実現できる、つまり、相互実現と言っていますけど、お互いに実現し合うような、そういう関係が地域活動の中にあるんだよと、そういう可能性があるんだよと。

そういうのが出ている場所に行くと、すごいみんな面白くなるし、楽しくなるし、ああ、よかったねというふうに、にこにこなっていくという。

そういう活動を少しずつ、少しでも本当にやっていって、実際に生まれているところをつないで、それこそネットワークをつないでいって、地域のほうからボトムアップして行政も変わっていくという。そんな、本当にまさに地域福祉らしいイメージが皆さんと共有できるんじゃないかなというのは少し思いました。

ですので、これだけいろんな話が出ていますので、ぜひこれはちょっと内容をもう１回見ていただいて、稲田さんのコメントもよかったんですけど、さすが社協職員というか、こういう柔軟な発想がどんどん広がっていって、本当に考えながらいろいろやっていくと。

いろいろやっていって、失敗することもあるんでしょうけど、ポジティブに捉えていくという、そういう姿勢が非常に重要かなというふうに思いました。

恐らく今までの福祉のやり方とはちょっと違う、失敗しないでやっていこうとか、マイナスをゼロにしようというところだけで終わらないような形なので、行政としては、本当はちょっとやりにくいところもあるとは重々承知ですけど、そこは区長が思い切って「これで行こう」って言っていただいて、その下にみんなでそれを支えながらできたらいいなというのも改めて考えました。

残念ながら、今日はちょっと社協からのご意見を聞けなかったので、当然社協はその辺りは重々承知で、しっかりと今支えていただいていますので、本当に住民の立場、専門職の立場、行政の立場、社協の立場、それぞれからのものが集まって、初めて地域ができるというのをやっぱり発信していきたいと。

皆さん、ここに来たからには、今日の話をぜひ地域で、それぞれの場で発信していくというのが、ある意味ここに来た者の役割だと思っていますので、すごく私は今日は面白い話合いになったというふうに思います。ぜひこれを進めていきたいなという希望を持ちました。

2025年なんですけど、2025年ってあれじゃないですか。そもそも地域包括ケアの最初の報告が出たときに、2025年までに地域包括ケアの仕組みつくるんだって言われて、その後バージョンが幾つか変わっていますけど、でも、まずやっぱり2025年なんですよ。

まさにその年ですので、地域包括というのは、全ての人がその人らしく生きられる、そういう場をつくるということの１つの目標だと思っていますので、まさにその年に進んでいければいいなというのを改めて思いました。

私からは以上です。

【西田委員長】　　ありがとうございました。

本日ご議論いただきました取組みについては、改めて今後の進め方等につきまして、事務局からコメントありますでしょうか。よろしいですか。いいですか。

【中濱保健福祉課長代理】　　保健福祉課、中濱です。

本日は計画素案ということでお示しをさせていただきましたけども、今後、ご意見いただきましたことを踏まえまして、計画案をまたつくりまして、いずれはちゃんと実行しまして、どんどんどんどんそういった自己実現できる人を増やしていけるような取組みを進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【西田委員長】　　それでは、終了の時間近くになってきましたので、橘区長のほうから、本日の会議に関して、一言お願いをいたします。

【橘区長】　　すみません、たくさん貴重なご意見、皆様からいただき、本当にありがとうございます。

本当に、小西課長も申しあげましたんですけれども、行政マン、僕も40年間、市役所の職員として勤めてまいりましたけれども、どうしても、まずは課題を抽出して、そこからどのような形でアプローチして、そして、どういうふうなとこら辺に着地させるのかというのが、僕らも長い間、職員やっている中で教え込まれた、あるいは、自分自身もそのような流れとして、職員に対して指示を出しているというのが正直ございます。

そういうことに対して、行政だからそれはちょっと仕方がないというのを小野先生におっしゃっていただいたので、少しちょっと気持ちが前向きになりましたんですけれども、今日いただいたご意見について、しっかりと、もう一度、そういう観点ではなくて別の観点でというような形で見たら、この地域福祉の取組みってどう見えるのかも含めて、どう進めたらいいのかということも含めて、もう一度考えていきたいと思います。

具体的には、たくさんご意見頂戴いたしました。地域座談会の状況ということで、山下委員、それから、稲田委員のほうからも少しご紹介ございました。前回もご紹介いただきました「スマイル号」の取組み、もう僅かな時間でこれだけ広がっているのかって、正直驚かされました。すごい地域の力、当然、山下委員中心にいろいろと取り組みいただいたところではあるんだろうなと思いますけれども、やはりその地域のすごさというのはすごいなというふうにも思ったところでもございます。

また、稲田委員のほうからは、新たな取組企画というんでしょうか、課題解決というとこら辺で、いろいろ打合せの場があったり、あるいは、一方で地域づくりの場があったりとか、それを一体的にやっていこうというような新たなそういう考えというんですか、そんなところをご紹介いただいたところです。

やはり先行していろいろ取り組みいただいている地域は今後ますます盛り上がっていくことだろうと思いますし、それにまだ及んでいない地域をどうするのか。西田委員長のほうからもございましたけれども、どういうふうに展開していくのか。

その中で四恩学園さんの「とびだせ！ひみつきち」というのが、プロジェクトを立ち上げまで相当時間を要して、いよいよスタートというような状況。僕もこれ聞かせていただいていて、小野先生もおっしゃっておられましたけれども、学生さん、若い力をどのよう

に１つに取りまとめて、そして、ここまでこぎ着けたのかというプロセスというんでしょうかノウハウ、それはまさに地域座談会の今後を展開するに当たって、非常に参考になるんじゃないかなと思いますので、また、そういうところについて、またいろいろと西田委員長のほうからご教示を賜ればというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

それから、前回に比べて、ちょっと色をつけまして、見やすくさせていただこうということで、かつ、矢印の相互関係も分かりづらかったので、説明文もつけさせていただきながら、少しでもこの「つながり・みまもり・支えあいシステム」が分かりよいものになるようにということで、ちょっとこちらのほうで、区役所内で協議をして、このような形にさせていただきました。

西田委員長のほうから、やはり専門職と区のとこら辺、会議体がいろいろあって、そういうとこら辺がやはり堅苦しい名前にはなっているんですけれども、もうちょっと分かりやすく表現できないかという、まさにそのとおりだと思います。

住民の方々から、いわゆる基礎となります住民の方々が携わるといいますか、接触される、あるいは、機会がある状況というのが、場面というのが、この住民というところからすぐ右側に移ったところの地域というところです。

それが、地域と専門職に移って、専門職と区、区役所、大阪市というように、どんどん住民の方から最後、大阪市が大分と遠い存在になっちゃうというようなとこら辺が正直ございます。

それらを少しでもつながりがあるようなというような形で、今後、ご意見いただいたとこら辺も修正かけていきたいと思いますので、また、引き続き、この点についてはご意見賜ればというふうに思ってございます。

それから、最後に、本日お示しさせていただきました計画素案でございます。６つ掲げさせていただきましたけれども、これについても、本当に貴重なご意見いただいたというふうに思ってございます。

いただいたご意見には、５番の区長と子どもたちの対談というようなとこら辺については、やはり子どもへのアプローチ、これはどちらかというと長期的な観点で、短期的な観点では何がということで、学生さんの関係は６番でもあったりもしますけれども、やはりこれだけではなく、子育て層の世帯といいますか、そういう方々に入ってもらうというようなことも大事じゃないかといった意見とか、あるいは、自己実現を表現していく、達成できる、そういった場づくり、そして、その広がり、そういうものが大事。担い手不足の

解消という言葉ではなくて、やはりそういうふうな意欲のある方々がそれに携わっていただくことで幸福感を得られるとか、そういうご意見もございましたし、ポジティブに考えていくということ、そういうとこら辺が非常に大事だというふうに、私自身も思ったところでもございます。

あとは、障がい者の方々への関わり方を大切にしていくお話とか、あるいは、情報発信、地域の活動が見えるというようなところで情報発信を考えたらどうかというご意見もございました。

そういった、今日、本当に貴重なご意見たくさんいただけた中で、皆様方の意見を踏まえまして、本日はまだ骨組状態ではありますけれども、少し肉付け、そして、具体的な取組みがイメージできるような、あるいは、表現できるような形にして、また、皆様方に再度ご意見を賜りたいというふうにも思ってございます。

最後に、山下委員のほうからご提案いただきました区長と子どもたちとの対談につきましては、当然１つ僕も思っていましたのが、今年の区民まつりというのは、区制100周年記念イベントとして位置づける祭りでもございますし、できたらそういう場で、時間的な余裕があれば、まさにホールで子どもたちと意見交換。

特に、僕も難しいといいますか、どうしたら子どもたちが目を輝かせながら、僕に対していろんな意見を言うていただけるのかという、どういうふうな形でそれをすれば、子どもたちがそのように意見発表というんですか、ストレートに僕に言うてもらえるのかというようなとこら辺をしっかり考えないといけないなというふうに思っていまして、これまでも子どもたち、小学生、中学生、僕のところにいろんなプレゼンをしに来てくれたりとか、あるいは、全国大会でこういう成績を収めたからということで表敬に来てくれたりします。相当子どもたち緊張しているんですね。先生ないしは保護者の方も一緒に来ていただけるんですけど、それでもやっぱりもうかちんこちんになって、あまり自分の意見というのは恥ずかしがりながらしゃべっている。実際そうだと思うんですけれども、そういうふうなことではなくて、しっかりと意気揚々といったらおかしいかもわかりませんけれども、言っていただけたらいいな。

反対に僕がいろいろ意見もらって、ちょっと回答に困ってタジタジとなるぐらい、何となくそうなるような気がするんですけれども、そういう場面にしていきたいなと思いますので、そういった点についても、いろいろとまたこういう形でやりますとご紹介させていただきますので、また、皆様方からご意見いただけたらうれしいなというふうに思ってご

ざいます。

本当に今日もたくさんご意見をいただきましたんですけれども、区役所といたしましては、地域福祉ビジョンの実現、そういうことに向けまして、相良委員もおっしゃいましたけれども、僕らとしても、やはりできることから着実に取組みを進めていきたいというふうに思っていますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申しあげます。

本日は本当に長時間、遅くまでありがとうございました。お世話になりました。

【西田委員長】　　会議の進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

本日ご議論いただいた内容は、事務局のほうで取りまとめて区政会議のほうへの報告を行っていただきます。

今後のスケジュール等について、事務局からお願いします。

【南保健福祉課長代理】　　西田委員長、ありがとうございました。

令和７年度のスケジュールについてお伝えします。

次第にも書かせていただいておりますが、次年度第１回を令和７年６月19日、第２回を10月30日、第３回を令和８年２月19日、いずれも木曜日の午後６時からを予定しております。事務局よりご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございました。

以上で、地域福祉専門会議を終了させていただきます。どうもお疲れさまでした。ありがとうございます。

――　了　――